園　　名：　品川区立中延保育園
テ　ー　マ：「自然とのかかわり」
設定の理由：自然に触れて遊ぶ中で、子どもは全身で自然を感じる体験により、心が癒されると同時に、多くのことを学んでいる。
品川区立保育園の中で園庭が広い中延保育園では、園庭の環境を整備し、身近な自然に触れる機会を多くもち、好奇心・探求心を育てる保育者の居方と環境、教材について学ぶ
対 象 年 齢：０歳児から５歳児

活動名：身近な自然に触れて遊ぶ（1 歳児クラス）

活動内容：保育者と一緒に園庭で砂や落ち葉などの身近な自然物に触れたり、集めたりして遊んだ

活動のねらい
- 砂を触ったり、シャベルですくったり、入れ物に入れたりして遊ぶことを楽しむ
- 探索活動を通して、身近な自然物に興味をもつ

用意した環境
- 見つけたものを入れておく手作り収集バッグ
- シャベル、型抜き、バケツなど年齢にあった０・１ 歳児用砂場玩具を用意する

子どもたちの様子
- 保育者を真似ながら、砂に触れて感触を楽しんだり、シャベルやバッグなどを使い、「運ぶ」「入れる」「出す」などさまざまなことを試したりしながらじっくり砂遊びを楽しんでいた
- 同じ場所で同じ遊びをする中で友達とかかわる姿や、「どうぞ」「ありがとう」など、砂遊びを通して、保育者と簡単なやりとりをしていた

保育者の振り返りと気づき
- 一人一人の子どもの特性と発達に応じて、保育者のかかわりや環境設定を行っていく大切さを感じた。また、一人一人の保育者の気づきや捉え方やかかわり方も異なるため、それを保育者間で共有し合うことで、子どもの理解が深まることを感じた

活動名：水や砂を使って遊ぶ（３歳児クラス）

活動内容：遊びの中で砂や水の性質や温度に気付いて遊びに取り入れた（容器を傾けると水が集まる、砂に水を混ぜると固くなる、乾いた地面が水で濡れると色が変わる　など）

活動のねらい	用意した環境
・水や砂の性質や不思議さ、面白さを感じる ・気付いたことや感じたことを友達や保育者に伝えようとする	・使いたい時にすぐ使えるように、たらいや番重などに水を張っておく ・園庭で遊ぶ機会を積極的に設定する ・園庭用のテーブルとベンチを設定する

子どもたちの様子

・番重に水が少なくなってくると、傾けて水を集めてスコップですくっていた
・作った砂山にバケツに入れた水を流し「雨が降ったよ」と流れる様子を見て喜んでいた
・乾いた地面に水が落ちると色が変わることに興味をもち、じっと見つめていた。何度か繰り返した後で、背伸びをして高いところから水を落とし始め、また模様のように変わる地面を見つめていた
・砂山に水をかけると「固くなったよ」と気付き、繰り返し水をかけ、スコップで砂山をたたき固めていた

保育者の振り返りと気づき

・たらいや番重を傾けると水が集まり汲みやすくなることや、砂山に勢いよく水を流すと、水の流れによって川のような道ができることなど、遊びの中で水の特性に気付き、遊びに取り入れていた
・遊びの中で気付いたことを何度も試したり、言葉にして友達に知らせたり驚きや発見を共有しようとする姿があり、一人で試すことと同時に、共有できる友達とのかかわりの大切さを感じた

活動名：木と触れ合って遊ぶ（5 歳児クラス）

活動内容：木育ワークショップで木に触れ合ったり、匂いを感じたりしながら工作を行った

活動のねらい

・ワークショップに参加し、木に触れたり匂いを感じたりしながら想像を膨らませて遊ぶことを楽しむ

用意した環境

・木片、鉋屑、木枠、マキンバ、グルーガン、穴あけドリル、ポスカ、紙やすり、木のベンチ、麻紐、木ダボを用意する
・園庭用のテーブルとベンチ、コンテナを使い遊びの場を分ける

子どもたちの様子

・目の前に広がった木片を興味深そうに手に取り、香りや手触りを感じ取っていた
・木片を合わせながらイメージしている物を少しずつ形にし、ポスカで色を塗ったり描いたりしていた。反面、様々な形の木片に、何をどのように組み合わせたら良いか、手を出せずに考え込む様子の子もいた
・木片の接着の様子に興味をもち、覗き込むように見つめていた

保育者の振り返りと気づき

・小枝で遊んだり木の幹に触れたりすることはあったが、ワークショップで木片や鉋屑などに触れ、匂いや感触を全身で味わい、遊びの中で木に親しみをもつ経験となった
・子ども達が困っている時は、保育者が見守り一緒に考えたり試したりすることで、「自分も試してみよう」と一歩踏み出せる安心感に繋がっていた。子どもの「やってみたい」を実現できる、保育者のかかわりや環境の設定が一人一人の自信や満足感、達成感へとつながる活動になると感じた